



# ぐるっとマップ No.159 鉄道がやってきた **保存版**

マップ作成: NPO法人ぐるっとネットワーク大町

## 1. 信濃鉄道

今の信濃大町駅まで鉄道がやってきたのは、100年前、1916(大正5)年7月5日です。今回のマップは、当時の信濃鉄道について紹介します。

明治末期、篠ノ井線開通をきっかけとして、

安曇野・大町においても鉄道誘致の機運が高まります。同じ頃、水力発電の好適地として高瀬渓谷に目をつけた中央資本が開発を計画しており、輸送路の確保が必要でした。

1912(明治45)年、信濃鉄道株式会社が創立。片倉製糸統績の設立者であり、松本商工会議所の初代会頭でもある今井五介を社長に据え、

工事建設も片倉組に託して1913(大正2)年4月に起工。今井五介の尽力により突貫工事を進め、1915(大正4)年11月には信濃大町駅まで全線開通しました。

県内の他のローカル線と異なり、官設鉄道と同じ規格を採用したため、中央線から列車を乗り入れ、直接輸送することが可能でした。

その後信濃鉄道は、高瀬川電源開発とも関わりながら、大町の近代化に大きな役割を果たし、1937(昭和12)年に国有化されました。

## 2. 仏崎駅跡

実は1915(大正4)年11月の全線開通時に信濃大町駅とされたのは、ここ、後の仏崎駅でした。1916(大正5)年7月の現信濃大町駅開業に伴い、仏崎駅と改称され、1917(大正6)年10月に廃止されました。

## 3. 信濃大町駅 全線開通後の延伸という形で、1916(大正5)年7月5日に開業しました。

## 4. 信濃鉄道記念碑

1937(昭和12)年の国有化の後、信濃鉄道の使命完了を記念して建てられた碑。建設から国有化までの経緯が記されています。かつては駅前広場公園にありましたが、今は五日町踏切を渡った駅の裏手に移設されています。



信濃鉄道記念碑

## 8. 旧アルプス追分停留場(現安曇追分駅)

開業当初はアルプス追分停留場として開業しましたが、北アルプスの登山口と間違えて下車する人が多く、1919(大正8)年安曇追分停留場に改称。その後池田鉄道の起点となったこともあり、1926(大正15)年に駅に変更になりました。

## 9. 旧おかめ前駅(現北細野駅)

駅西側にある鈿女神社(うずめじんじや)は「おかめ様」と呼ばれて信仰を集めており、当時参拝客が多かったことから1930(昭和5)年に開設されました。

## 10. 旧昭和停留場(現南大町駅)

1933(昭和8)年の昭和アルミニウム工業所(現昭和電工(株)大町事業所)設立を受けて、1934(昭和9)年、工場の目の前に昭和停留場が開業。国有化に伴い南大町駅と改称されました。

このマップでは、四季折々の地域の魅力を再発見するために、皆様から情報をいただきながら様々な切り口で紹介してまいります。  
ぐるっとネットワーク大町事務局: TEL 0261-85-0556 FAX 0261-85-0557  
これまでのぐるっとマップはホームページ <http://www.grutta.net> よりダウンロードできます。



## 5. 信濃公堂

地元の高い理想と教育熱の高まりのもとで実現できた信濃木崎夏期大学。当時鉄道院総裁だった後藤新平はかねてから学歴を問わず誰もが学べる社会教育が必要だとして、通俗大学を構想しており、開講に尽力しました。また、信濃鉄道が講堂と宿舎を建設し、管理を担いました。信濃鉄道は、夏期大学のホステスを全国の駅に展開し、全国から来る人に学割を発行し、信濃大町～木崎のバスを運行する等により信濃木崎夏期大学を支えたといえます。

## 6. 安曇電気(株)本社跡(現中部電力大町サービスステーション)

安曇野の地において真っ先に電源開発を進め、近代化の牽引者となった電気会社。1902(明治35)年に白馬村の横澤本備士をはじめとする地元創設者によって創業し、1923(大正12)年には北安曇・南安曇・東筑摩・更級・上木内にも電気を供給していました。1905(明治37)年に完成した宮城第一発電所では、日本現役最古の木車と発電機が、今も稼働しています。1926(大正15)年に電化された信濃鉄道の電力供給源もこの安曇電気でした。

## 7. 池田鉄道

信濃鉄道のルートから外れた池田町では、信濃鉄道の開通後、鉄道建設の機運が高まり、1925(大正14)年池田鉄道株式会社が設立されました。発起人は会梁村出身の内山昇(安曇電気社長、安曇銀行頭取、信濃鉄道取締役)。安曇追分を起点とし北池田に至る6.9kmが、1926(大正15)年開通します。住民の利便はよくなったものの赤字に苦しみ、信濃鉄道の国有化に伴い、1938(昭和13)年に営業を廃止しました。



大正時代後半の信濃大町駅

※今回のマップは、「信州の鉄道物語」(1987,信濃毎日新聞社)、「高瀬川の電源開発と地域社会」(2012,NPO地域文化工房)を参考に作成しました。

※このマップは、2016年11月18日付の大糸タイムスに掲載されました。  
※情報は掲載当時のものです。ご注意ください。  
※個人で楽しんでいただくためのものです。二次利用をされる場合にはご相談下さい。